

諏訪湖の案内人（仮称）養成講座」WGの検討結果報告

1 開催状況

回	日時	参加者（メンバー11名、事務局3名）	会場
第1回	R3. 9. 21 13:00～15:30	11名（うち事務局3名）	諏訪合同庁舎
第2回	R3. 12. 14 13:00～15:30	13名（ ” ）	諏訪合同庁舎
第3回	R4. 2. 17 13:00～15:00	11名（ ” ）	諏訪合同庁舎

2 検討状況

（1）概要

1）目的

諏訪湖の案内人（仮称）は、諏訪地域の住民、子ども、観光客等を主な対象とし、主としてフィールドにおける保全や意識啓発等の活動を通じて、そこで学びを得る機会を提供することで、諏訪湖の水環境の価値と魅力を伝え、その保全や活用に対する関心を高めます。

2）属性

- ① “自然環境や生物”に関心が高く、その調査や保全等の活動に定期的に参加する地域住民
- ② “自然環境や生物”に関心が高く、今後そのための各種活動に参加したいという意欲のある地域住民
- ③ 環境の保護・保全に関するボランティア活動全般に関心のある地域住民
- ④ 観光ガイドや観光案内に関わる観光関係事業者等

3）活動方針

- ① 積極的なフィールド活動
- ② 様々な人々との交流・協働
- ③ 知識・技術の蓄積と世代間での伝承
- ④ 専門的な機関・団体等との連携

4）活動内容

- ① 環境保全のための活動
- ② 意識啓発のための活動
- ③ 観光と学びのコンテンツの提供
- ④ メンバー自身の学習
- ⑤ 情報の案内／活動内容の発信
- ⑥ その他の活動

5）活動の範囲

- ① 活動拠点：諏訪湖環境研究センター（仮称）を主たる活動拠点とします。
- ② 活動範囲：諏訪湖の案内人（仮称）は、諏訪地域の6市町村を主たる活動範囲とします。

（2）名称

1）名称を定めるにあたっての考え方

- ① 諏訪湖の自然環境を守る（護る）団体であること
- ② 諏訪地域の住民、子ども、観光客等と共に活動する団体であること
特に、次世代の環境保全・まちづくりを担う「子ども」と共に活動する団体であること
- ③ 国内外（諏訪地域から全世界）に向けて、諏訪の価値と魅力を伝える団体であること
特に、海外に対しても伝わりやすい名称であること

なお既存の活動と混同されないよう、名称においてはある程度固有のイメージを持たせることも検討すべきである。

2) 名称に盛り込むキーワードの案

ワーキンググループで出た名称に盛り込めるキーワードについて整理します。

考え方	名称への反映案
①自然環境を守る	・守りびと、護り隊
②住民、子ども、観光客等と共に活動する	・レイクリーダー、「〇〇隊」(子どもにも分かりやすいものとする) ・諏訪っ人、語り部、传承人など(諏訪に根差した活動をすることを伝える)
③国内外に価値と魅力を伝える	・インタープリター、マイスター、パートナー、レイクリーダー ※LAC(湖のフランス語)など、英語以外の言語を用いて特徴を持たせる工夫も

(3) 育成カリキュラム(案)

1) 目的

本カリキュラムは、「諏訪湖の案内人(仮称)」となる希望者に対し、その活動において求められる最低限の知識・技術の習得を図ることで、「諏訪湖の案内人(仮称)」の水準を一定以上に担保するものです。

カリキュラムの最終回では、それまでに学んだことを試験し、一定基準を満たした者を「諏訪湖の案内人(仮称)」として認定することを想定しています。

2) 習得すべきこと

- ①「諏訪湖の案内人(仮称)」の活動目的や活動にあたっての心構え
- ②「諏訪湖の案内人(仮称)」に必要な最低限の知識(テキストを中心に学ぶ)
- ③「諏訪湖の案内人(仮称)」の(特にフィールドでの)活動に必要な最低限の技術

3) 実施方針

- ①幅広い希望者が参加しやすいように、一回の講座は半日程度の時間とし、年に5～6回程度の講座で完結するものとします。
- ②「諏訪湖の案内人(仮称)」がフィールドでの活動を積極的に行うことを想定し、「座学」だけでなく「フィールド」での講座に一定以上の時間を割きます。
- ③将来的には、既に「諏訪湖の案内人(仮称)」として認定されたメンバーが、希望者に対し、実践経験に基づいた知見や心構え等について伝える場を設けることを検討します。

4) 構成(案)

第1回・第2回を座学とし、目指すべき姿や基本的な知識を学びます。

第3回・第4回はフィールド活動を通じて、求められる技術を身につけます。

第5回は試験とし、筆記と実技の両方を行います。

(4) テキスト

1) 案内人に求められる知識

諏訪湖の案内人(仮称)として活動する際には、メンバー全員が持つべき必要最低限の知識があります。ここで最も重要なのは、「諏訪湖の水環境についての基礎知識」です。また環境・観光等の様々な組織・団体等と連携した情報を案内するにあたって、どのような組織・団体がどのような活動をしているかという「最新情報」をおさえておく必要があります。

これらに加えて、個々のメンバーがそれぞれ関心のある分野で深める知識があります。このことで「環境問題に詳しい」「観光分野についてのアドバイスもできる」など特定分野に詳しい案内人が

生まれ、諏訪湖の案内人（仮称）の活動の幅を広げることができます。

2) テキストを整備する対象

	主な内容	習得方法
全メンバーが習得すべき 必要最低限の知識	● 諏訪湖の水環境についての基礎知識	『諏訪湖読本』を活用する※
	● 諏訪湖の環境・観光等に関わる最新情報	定期的に情報をアップデートできる形式でとりまとめる
個々のメンバーが深める知識	● 環境、観光、歴史文化等についてのより深い知識	メンバーがそれぞれ勉強する

※『諏訪湖読本』については、一般用と子ども向けの2種類があり、このうち子ども向けのものが端的に重要事項がまとまっているため、基本的にはこちらを共通テキストとして活用することを想定する。

3) テキスト素材の内容と活用方法

1) 諏訪湖の水環境についての基礎知識『諏訪湖読本』

■テキストを整備する目的

諏訪湖の案内人（仮称）が、解説・情報案内、保全活動の企画・実施、地域を巻き込んだイベントや意識啓発の運営等、そのあらゆる活動を行うにあたり、踏まえておくべき原典となるものを体系的に整理しておくためのものです。

メンバーは全員、このテキストにある知識や考え方を前提として、諏訪湖の案内人（仮称）としての活動を行うことが求められます。

■内容

諏訪湖の地形や気象、自然環境、水質、治水、環境保全活動に関する学術的な知識を体系的にとりまとめたもの。一般用と児童用の二種類。

■形式

印刷した冊子とします。

■活用方法

諏訪湖の案内人（仮称）の養成講座における教材とし、研修にあたってメンバーになることを希望する全研修生へ配布します。

研修終了後は、各メンバーが一冊を保有し、自信の諏訪湖の案内人（仮称）としての活動において随時参照します。

2) 諏訪湖の環境・観光等に関わる「最新情報」

■テキストを整備する目的

定期的に情報をアップデートできる形式で別途集約・共有します。

■内容

環境保全の各種活動、調査・研究の結果として公表されたもの、環境や観光に関わる新しい組織・施設等の開設、新しい観光コンテンツやイベントの誕生といった内容を想定します。

■形式

新聞等のメディアで報道される記事、Web等でのプレスリリース情報、配布されるチラシやリーフレット等の情報源をファイリングし、集約・保管します

■活用方法

養成講座での知識習得に活用すると共に、諏訪湖の案内人（仮称）の活動においても『諏訪湖読

本』を補完する形で活用します。

3) その他のテキスト等の活用

活動を通じ、住民や観光客との対話の中でよく尋ねられること（人気の観光コンテンツや諏訪湖の標高・全周などの基本的情報、トリビア情報等）を整理し、言語化・共有していきます。

また、諏訪地域で既に制作されたマップやリーフレット等の既存素材を活用し、これに諏訪湖の案内人（仮称）が把握し伝えるべき情報を追加します。